

西ドイツ(ドイツ連邦共和国)の幼児教育

西 本 脩

施設の種類

ほとんどどこでも、幼児は小学校へ入学する規定の年令(少なくとも六才)になるまで、幼稚園へ通うことができます。

たいていの幼稚園は独立施設ですが、ある幼稚園は、三才から十五才までの子どもの半寄宿学校(キンダー・ターゲスハイム)や、地域社会ホーム(ナツハバールシャフト・ハウス)などのような、他の施設の一部になっています。

そのほか、一九三九年にハンブルクに初めて設立され、今では他の大都市にもある特殊な型の幼稚園があります。この施設は、学令になったが身体的にも精神的にも小学校に通えるほど成熟していない子どものための学校幼稚園(シュール・キンダーガルテ

ン)です。このような子どもは、小学校へ入学するために、一年間、特別な準備をさせます。

また、ニーターザクセン(西ドイツの州名)はもちろん、ブレメンとハンブルクには、身体障害児すなわち、聴力障害・言語障害あるいは視力障害のある子どものための養護学校幼稚園(ゾンデルシュール・キンダーガルテン)があります。

ある州(ラント)では、小学校は、もし子どもが必要な成熟をしているならば、学年初めの三か月間に満六才になる子ども(すなわち、学年の初めには五才九か月の子ども)の入学を許します。これ以下の年令の子どもは、入学を許されません。

原則として、学校幼稚園は、学令になっていない子どもははい

れません。

組織・財政・管理

幼稚園は、(1)地方自治体の行政当局(自治都市とコンミンニ) (2)教区、慈善団体と協会、宗派組織、会社、あるいは個人によって設立され、融資されています。

学校幼稚園はほとんどすべて、公当局(コンミンニ州、または両方)によって設立され、融資されています。ニーターサクセンには身体障害児のための私立の養護学校幼稚園が二つあり、ノルトライン・ウェストファーレン(西ドイツの州名)には私立の学校幼稚園が二つ、ベルリンには一つあります。

教区または慈善団体に融資されている幼稚園は、コンミンニあるいは州から補助金を受けます。一般に、その他の型の幼稚園は、補助金を与えられません。

ノルトライン・ウェストファーレンとベルリンにある私立の学校幼稚園は、政府の補助金を受けています。ニーターサクセンの身体障害児のための養護学校幼稚園は、もっぱら教会から融資されています。

幼稚園を監督し、管理する特別な官庁はありませんが、州の青年局は、公立・私立、すべての幼稚園の管理を受けています。若ものたちの保護に関する一九二二年の法律にしたがって設置されたこの青年局は、州によって異なり、いろいろな省(文部

省・内務省・青年省・社会省)に属しています。

幼稚園を管理する責任がある青年局の職員は、この職務のために特別に訓練されます。この職員は、青年指導員、ソーシャル・ワーカー、あるいは社会監督官としての長い経験を持つ人びとです。

学校幼稚園の管理は、ふつう、政府の学校視学官(シューラート)によって行なわれます。

いろいろな特色

幼児教育は決して義務教育ではありません。学校幼稚園への出席は、たいていの州で随意です。プレーメンでは小学校へ入学できない学令児は、学校幼稚園に通わなければなりません。もしこの種の幼稚園が近所であれば、ニーターサクセンでも同様です。

幼稚園にはいることを許される最低年齢は、ふつう三才です。たいていの農村地域には、例外として二才ないし三才の幼児を受け入れる幼稚園があります。

学校幼稚園にはいる最低年齢は、ふつう六才ですが、ベルリンでは、五才ではいることを許されます。

幼稚園へ通うのは、無料ではありません。保育料は両親の収入に比例して異なります。税金の軽減や免除でさえ、両親の境遇や、幼稚園に通っている同じ家族の子どもの人数によって認められます。

けれども、学校幼稚園については、ほとんどすべて無料です。

幼稚園教員ひとり当たりの幼児の規定人数は、州によって異なり、十五人から三十五人までさまざまです。学校幼稚園では、指導員ひとり当たりの子どもの人数は二十人から二十五人までさまざままで、身体障害児のための養護学校幼稚園では、その人数はもっと少しです。

教育活動と方法

幼稚園の教育活動について、公式の指令は何もありません。教育の目的は公式の指令書ではつきりされており、州が異なってもほとんど同じです。この目的は、幼稚園教育は家庭教育を延長すべきであるという原理と、幼稚園教育は子どもの全人格に、すなわち靈魂の発達、知的発達はもちろん、身体発達にもかかわりがあるべきであるという原則に基づいています。

何も特定の方法に従う必要はなく、子どもの生命の自然の発達を助けることが必要です。幼稚園教員は、個人的な自由遊びと集団的な自由遊びとの間、遊びとさしずされる活動との間、運動と静かな活動との間に、それぞれ、賢明なつりあいを保つように、計画すべきです。

ヘッセン（西ドイツの州名）では、幼稚園に関する指令書は、幼稚園と昼間保育所が家庭の暖かさや安定をできるだけ保ち、おとなと子どもとの間に親しいきずなを作り上げるべきことを強調し

ています。幸福な信頼しきつたふんい気の中で、子どもとおとなはいっしょに次のようなことにたずさわります。すなわち、園芸・花や動物の世話・近隣のよしみの発見・自然の観察・遊びとさしずされる活動を通じての経験の獲得などです。創造的活動や実験にふさわしい、多くの上等なおもちゃ・絵本・特にいろいろな材料（砂・水・木・絵の具・粘土・紙・きれ・工具など）を利用することをすすめています。芸術的な活動、特にリズム遊びに特別な地位を与えるべきです。たとえば、勉強に対する偏見がなくても、子どもは独立した自発的な活動へと導かれることがたいせつです。

今までのところでは、ベルリンでだけ、学校幼稚園に対するくわしい指令書ができています。この指令書は、フレイベルやモンテッソリーの教材を、その他のこれに似かよった教材と同じく利用するようすすめています。

基礎的技能（読み書き計算）は、幼稚園でも学校幼稚園でも教えていません。

教える言語

この発達段階では、外国語を教える準備はされていません。

時間割

州の指令書には、幼稚園で採用すべき時間割についてくわしく記していません。一般に、幼児は幼稚園で日々せいせい四時間過

ごします。

研究の中心施設

次の機関は、幼稚園に関係のある諸問題を扱っています。幼児教育国民委員会（O M E P）、カトリック幼稚園託児所協会、ベスタロッチ・フレールベル協会、国際教育研究の大学研究所（ホッホ・シュール）

幼稚園と学校幼稚園に関する諸問題は、大学の教育学の教授はもちろん、幼稚園教員および青年指導員養成施設、宗派の研究グループによって扱われています。

経済生活・労働生活との関係

幼稚園が設立されるばあい、家庭生活の要求や母親の労働従事に考慮が払われます。食事とスナック（軽食）の組み合わせはもちろん、一日の保育時間の長さも、住民の生活習慣や労働習慣によってきめられます。

学校幼稚園は、特殊な目的を持つているために、またわずかであるために、この点については顧みないでいます。

家族との協力

幼稚園でも学校幼稚園でも、ともに、家族との密接な協力をもたらす努力がされています。母親または両親との定期的な会合が行なわれます。両親は、幼稚園の祝いのもよおし物や儀式に仲間入ります。幼稚園教員は家庭を訪問します。

医学的管理

幼稚園の設立・経営に関する指令書は、子どもの健康の観察と医学的管理についてくわしく規定しています。あらゆる健康状態の測定が必要です。

子どもたちは定期的に医学的検査を受け、幼稚園がまる一日開かれるばあいは、ふつう家政学の特別な訓練を受けた人びとの手で準備される食事を受け取ります。

学校幼稚園では、子どもたちは学年の初めと終わりに医学的検査を受けます。この種の幼稚園は、ふつう午前中だけ開かれるので、子どもたちは、ただ飲み物（ミルクかココア）を受け取るだけです。

安全と輸送

両種の幼稚園は、ともに住所の近くににあります。子どもたちは、両親か兄弟に付き添ってもらいます。けれども、プレーメンでは、学校幼稚園へ行くのにある程度の距離を移動しなければならぬ子どもたちに、公共輸送機関の特別切符が利用されています。

建物と設備

幼稚園の道具立て（各へやの大きさ、窓の面積、運動場の整備、備品の準備など）に関して、指令書が州からだされています。さらにこまかい情報については、ベスタロッチ・フレールベル

協会の指令（一九六〇年発表）を参照することができます。

学校幼稚園の設備を管理する規定は、まだありません。

教員の養成

幼稚園教員養成の特別な学校があります。その課程は二か年で、入学志願者は中等学校の卒業証明書か、またはそれと同等のものを持っていないければなりません。（すなわち、十か年の一般教育を修了していなければなりません）また、一年間家政学の実地訓練を受けるか、または家政学の学校に一年間通うかのどちらかをしなければなりません。

現職の幼稚園教員は、次のような、さらに深い職業訓練の便宜を与えられています。

三年間勤めたのち、青年指導員（ユージェント・ライテリン）になる二年課程をとることができます。この課程は、発生心理学・矯正教育・社会心理学・教授理論と教授法の研究からなっています。さらに、二十才になった幼稚園教員は、ソーシャル・ワーカーの課程をとることができます。ばあいによっては、特別な試験を受けて教員養成大学にはいり、小学校女教員免許状のための六学期研究課程をとることができます。

普通に必要な資格を持たないで、幼稚園に雇われるものは、ただ助手に任命されるだけです。

ほとんど例外なく、青年指導員だけが学校幼稚園では雇われま

す。

教員の身分

幼稚園教員は、小学校教員と同じ身分でもなく、同じ給料でもありません。幼稚園教員は単なる雇い人であるのに対して、公務員である小学校教員は、より高い給料を受けています。

学校幼稚園で雇われている青年指導員もまた、雇い人の身分です。その給料は、幼稚園教員よりは高いけれども、小学校教員の給料と全く同じではありません。

幼稚園教員と青年指導員は、小学校女教師に要求されている訓練を受けたならば、小学校で教えることもできます。同じように、小学校の女教師も、幼稚園教員養成学校の課程を修了したならば、幼稚園で教えることができます。

幼児教育の発展上の困難点

幼児教育の発展を妨げている最も大きな障害は、有資格職員のないことと、ふさわしい建物の不足していることです。新しい幼稚園教員養成学校の開校は、だんだんに教員の不足を補うのに役立つでしょう。

学校幼稚園の発展に、特別な注意が向けられています。農村地域では、近くのいくつかのコミュニティンから子どもたちを集めることができるならば、この種の幼稚園の設立が正当化されます。